

社会資本総合整備計画

大磯駅周辺の安全安心・にぎわい創出まちづくり

(第四回変更)

令和5年1月30日

神奈川県大磯町

社会資本総合整備計画（市街地整備）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|------|----------|---------|-----------------------------|------------------------|----------------|------------|------|-----------------------------|------|----|----|----------------|-------|----------------|----|
| 計画の名称 | 大磯駅周辺の安全安心・にぎわい創出まちづくり | | | | | | | 重点配分対象の該当 | ○ | | | | | | | | | |
| 計画の期間 | 平成30年度～令和5年度（6年間） | | | 交付対象 | 神奈川県大磯町 | | | | | | | | | | | | | |
| 計画の目標 | 交通結節機能の強化による安全安心の確保及びにぎわいの創出 ① 大磯らしい魅力的で個性的なまちづくり ② 安全・安心、防災のまちづくり | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計画の成果目標（定量的指標） | ・ J R 大磯駅の乗車人員が、1日平均8,051人から8,284人に増加する。 ・ J R 大磯駅前広場利用者アンケートによる大磯駅前広場が安全安心だと思う人の割合が31%から53%に上がる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 定量的指標の定義及び算定式 | | | | | | 定量的指標の現況値及び目標値 | | | 備考 | | | | | | | | | |
| 東日本旅客鉄道(株)が公表する J R 大磯駅の1日あたりの平均乗車人員。 大磯町が実施する大磯駅前広場利用者アンケートによる「大磯駅前広場の安全安心」に対する満足度。 | | | | | | 当初現況値 (H28当初) | 中間目標値 (H 末) | 最終目標値 (R5末) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 8,051人/日 | | 8,284人/日 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 31% | | 53% | | | | | | | | | | |
| 全体事業費 | 合計 (A+B+C+D) | 2,556百万円 | A | 2,556百万円 | B | 0百万円 | C | 0百万円 | D | 0百万円 | 効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D) | 0.0% | | | | | | |
| 交付対象事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A 基幹事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 事業種別 | 地域種別 | 交付対象 | 直接間接 | 事業者 | 要素となる事業名 (事業箇所) | 事業内容 (延長・面積等) | 市町村名 | 事業実施期間（年度） | | | | | | 全体事業費 (百万円) | 費用便益比 | 個別施設計画 策定状況 | 備考 |
| | | | | | | | | | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 | R5 | | | | |
| 1-A-1 | 都市再生 | 一般 | 大磯町 | 直接 | 大磯町 | 大磯駅周辺地区都市再生整備計画事業 | 駅前広場 約3,900㎡、公園 約1.8ha | 大磯町 | | | | | | | 2,502 | | | |
| 1-A-2 | 緑地保全 | 一般 | 大磯町 | 直接 | 大磯町 | 大磯町緑地保全等事業(小海線海岸松林特別緑地保全地区) | 保全利用施設整備 約0.9ha | 大磯町 | | | | | | | 54 | | | |
| | | | | | | | | | 合計 | | | | | | 2,556 | | | |
| B 関連社会資本整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 事業種別 | 地域種別 | 交付対象 | 直接間接 | 事業者 | 要素となる事業名 | 事業内容 (延長・面積等) | 市町村名 | 事業実施期間（年度） | | | | | | 全体事業費 (百万円) | 費用便益比 | 個別施設計画 策定状況 | 備考 |
| | | | | | | | | | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 | R5 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
| 番号 | 一体的に実施することにより期待される効果 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C 効果促進事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 事業種別 | 地域種別 | 交付対象 | 直接間接 | 事業者 | 要素となる事業名 | 事業内容 | 市町村名 港湾・地区名 | 事業実施期間（年度） | | | | | | 全体事業費 (百万円) | 備考 | | |
| | | | | | | | | | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 | R5 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
| 番号 | 一体的に実施することにより期待される効果 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D 社会資本整備円滑化地籍整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 事業種別 | 地域種別 | 交付対象 | 直接間接 | 事業者 | 要素となる事業名 (事業箇所) | 事業内容 (面積等) | 市町村名 | 事業実施期間（年度） | | | | | | 全体事業費 (百万円) | 備考 | | |
| | | | | | | | | | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 | R5 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 合計 | | | | | | | | | |
| 番号 | 一体的に実施することにより期待される効果 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

参考図面（社会資本整備総合交付金）

| | | | |
|-------|------------------------|------|---------|
| 計画の名称 | 大磯駅周辺の安全安心・にぎわい創出まちづくり | 交付対象 | 神奈川県大磯町 |
| 計画の期間 | 平成30年度～令和5年度（6年間） | | |



0m 500m 1000m

社会資本総合整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

おおいそ えきしゅうへん あんぜん あんしん そうしゅつ かながわ けん おおいそ まち
大磯駅周辺の安全安心・にぎわい創出まちづくり（神奈川県大磯町）

(参考)年次計画

(事業費:百万円)

| 基幹事業 | | | | | | | | | |
|-------------------|-----------------|------|-------------|--------|-------------------|-------|-------|-------|--------|
| 事業名 | 事業箇所名 | 事業主体 | 交付対象 事業費 | 平成30年度 | 平成31年度 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| 大磯駅周辺地区都市再生整備計画事業 | 大磯駅周辺地区 | 大磯町 | 2,502.0 | 10.0 | 1,315.0 | 0.0 | 896.5 | 124.0 | 156.5 |
| 大磯町緑地保全等事業 | 小湊緩海岸松林特別緑地保全地区 | 大磯町 | 53.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 28.1 | 0.5 | 25.0 |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| 計 | | | 2,556 | 10.0 | 1,315.0 | 0.0 | 924.6 | 124.5 | 181.5 |
| 関連社会資本整備事業 | | | | | | | | | |
| 事業名 | 事業箇所名 | 事業主体 | 交付対象 事業費 | 平成30年度 | 平成31年度 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| 計 | | | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 効果促進事業 | | | | | | | | | |
| 事業名 | 事業箇所名 | 事業主体 | 交付対象 事業費 | 平成30年度 | 平成31年度 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| | | | 0.0 | | | | | | |
| 計 | | | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | | | 2,555.6 | 10.0 | 1,315.0 | 0.0 | 924.6 | 124.5 | 181.5 |
| 累計進捗率 (%) | | | | 0.4% | 51.8% | 51.8% | 88.0% | 92.9% | 100.0% |

都市再生整備計画

おおいそえきしゅうへんちく
大磯駅周辺地区
(第三回変更)

神奈川県 おおいそまち
大磯町

令和5年3月

目標及び計画期間

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|---------------|-----|-------------------------|----|------|------|----|----|----|---|----|---|----|
| 都道府県名 | 神奈川県 | 市町村名 | オオイノマチ 大磯町 | 地区名 | オオイノエキシュウヘダク 大磯駅周辺地区 | 面積 | 40.7 | ha | | | | | | | |
| 計画期間 | 平成 | 30 | 年度 | ～ | 令和 | 5 | 年度 | 交付期間 | 平成 | 30 | 年度 | ～ | 令和 | 5 | 年度 |

目標

大目標 交通結節機能の強化による安全安心の確保及びにぎわいの創出

小目標① 大磯らしい魅力的で個性的なまちづくり

小目標② 安全・安心、防災のまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・大磯町は、南に相模湾（大磯港や大磯海水浴場）、北に高麗山、鷹取山などの大磯丘陵を望み、これら豊かな自然が暮らしの場に近接している。平安時代後期には余綾郡家・国府が町の西部に置かれ、鎌倉時代以降整備された大磯駅（宿駅）は、江戸時代には東海道の品川から数えて8番目の宿場町として栄えた。明治以降は、初代・陸軍軍医総監を務めた松本順が、照ヶ崎海岸に日本初の海水浴場を開設し、明治20年に東海道本線の大磯駅が開業すると、伊藤博文など歴代内閣総理大臣8名をはじめ多くの政財界人が邸宅、別荘を構え、大磯の名前は保養地として全国に広まった。このような長い歴史の中で培われてきた、東海道松並木や海岸線の松林、明治期以降の財政界人の歴史的建造物といった地域資源が現在も町に多く残されている。
- ・本地区は、江戸時代には宿場町を形成し本陣が整備され、明治時代からは郡役所、町役場等が置かれた。また、明治20年の東海道本線の開通では、本地区に大磯駅が開設され、日本初の海水浴場を有する避暑避寒地として賑わう町の玄関口となり、現在も多くの公共施設等が集積するまちの拠点となっている。

- ・歴史的建造物のひとつである旧吉田茂邸は平成21年3月に火災により消失したが、全国からの寄付金や交付金を得て平成29年4月に再建し一般公開しており、年間10万人を超える観光客が訪れている。
- ・平成29年11月に、旧伊藤博文邸等を中心とする建物群及び緑地を明治記念大磯邸園（仮称）として整備し、歴史的な建物群等の一体的な保存・活用を図ることが閣議決定され、現在、国及び地方公共団体（県・町）が連携し、整備に向けた検討を進めているところである。
- ・大磯駅周辺の交通環境改善のため、街なみ環境整備事業により大磯駅前広場隣接地に駐輪場を新たに整備し、平成27年11月から供用を開始している。
- ・大磯港及び周辺エリアを対象に、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成29年3月に「大磯港みなとオアシス（賑わい交流施設）整備計画基本構想」を策定し、平成32年度供用開始を目標に、交流拠点の核となる「賑わい交流施設」整備に向けた取り組みを進めている。
- ・大磯駅及び周辺エリアを対象に、安全安心の確保及びにぎわい創出を図るため、駅前広場の現状と課題を整理するとともに対応策を検討し、平成30年3月に「大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画（案）」として取り纏めた。

課題

- ・明治中期から昭和20年代までには述べ500軒近く立地していた邸園（別荘等の歴史的建築物と緑豊かな庭園や周辺の自然環境を総称した造語）は、土地利用の転換によって減少傾向にあり、緑豊かな歴史的な環境が失われる危機に直面している。
- ・相模湾と大磯丘陵に囲まれた狭小な地形の中で、古くから栄えた町であるため、大磯駅前広場及びその周辺に狭小な道路や歩道の未整備箇所が存在している。また、駅前広場自転車駐輪場の整備（H27.11）に伴い自転車の交通量が増加しており、自動車・歩行者動線と錯綜するといった課題も生じている。更には、今後、大磯港（大磯駅から約500m徒歩圏）の「賑わい交流拠点」や「明治記念大磯邸園」などの観光拠点の整備を予定しており、観光客の増加が見込まれている。そのため、駅前広場や道路などの都市基盤の整備によって安全な歩行空間や自転車走行空間を確保し、地域住民及び来訪者の安全・安心の確保するとともに、新たな観光拠点とも連携したにぎわいの創出が必要である。

将来ビジョン（中長期）

■総合計画（第四次総合計画後期基本計画）〔平成28年3月〕

- ・重点事業に、地域資源を生かした観光の振興を位置付け、歴史的・文化的な資源などの地域資源を活かして、来訪者が町での体験や交流活動の中から「また訪れたい」と思う保養地を創造するとしている。
- ・施策目標に、豊かな自然と良好な町並みの風景を創出を掲げ、個別施策として自然風景の保全と創出、良好な町並み風景の形成、歴史的・象徴的建築物のある風景の保全と活用を位置付けている。
- ・施策目標に、歴史的または文化的価値の象徴となる建造物等の保全及び活用を位置付けている。
- ・施策目標に、持続可能な都市経営の推進を掲げ、個別施策として、まちの拠点である大磯駅前広場周辺エリアの再整備、都市拠点における商業・観光基盤・景観の整備促進を位置付けている。

■人口ビジョン・総合戦略〔平成28年3月〕

- ・戦略のひとつに「大磯への新しいひとの流れをつくる」を位置付け、歴史的・文化的な資源などの地域資源を生かし、町への愛着・誇りを高めることにより、来訪者が町での体験や交流活動の中から「また訪れたい」と思う保養地を創造するとしている。

■まちづくり基本計画（都市マスタープラン）〔平成18年3月（平成28年6月一部見直し）〕

- ・歴史的・象徴的建築物のある風景を保全するため、積極的な保存・活用を図るとしている。
- ・白砂青松のこゆるぎの浜などの海の風景を保全するため、自然海岸の保全と松林の維持管理を図るとしている。
- ・大磯駅周辺をまちの拠点に位置付け、交通環境・商業・観光基盤・景観の整備、バリアフリー化などにより拠点の整備を図るとしている。
- ・駅の交通結節点機能の充実とバスサービスの向上等により、公共交通の充実を図るとしている。

目標を定量化する指標

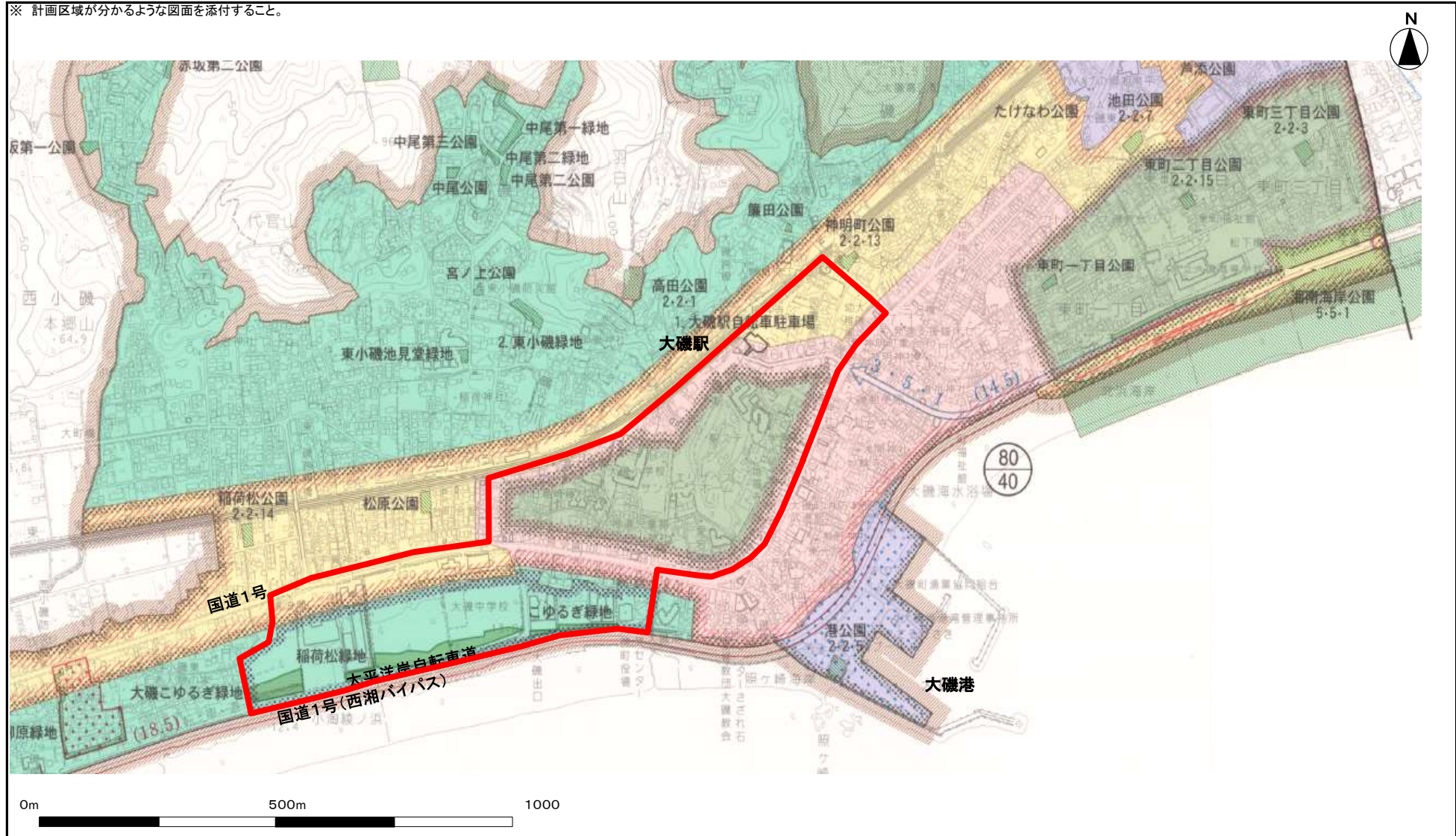
| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | | 目標値 | |
|-------------|-----|---|--|----------|--------|----------|-------|
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | 基準年度 | 目標年度 |
| 大磯駅乗車人員 | 人/日 | 東日本旅客鉄道株が公表するJR大磯駅の1日あたりの平均乗車人員 | 新たな観光拠点の整備及び交通結節点強化によって町の魅力が高まることで、交流人口・定住人口の増加し、それに伴って鉄道利用者が増加する。 | 8,051人/日 | 平成28年度 | 8,284人/日 | 令和5年度 |
| 安全安心に対する満足度 | % | 大磯町が実施する大磯駅前広場利用者アンケートによる「大磯駅前広場の安全安心」に対する満足度 | 大磯駅前広場の歩行者や自転車の通行空間、人の滞留空間の整備及び動線を明確化することで安全対策が図られ、利用者の安全に対する満足度が上昇する。 | 31% | 平成29年度 | 53% | 令和5年度 |

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|---|--|
| <p>整備方針1<大磯らしい魅力的で個性的なまちづくり></p> <p>○「明治記念大磯邸園」整備による歴史的・象徴的建築物のある風景の保全と活用 ⇒・国、県及び町が連携して旧伊藤博文邸（滄浪閣）を中心とする建物群及び緑地を「明治記念大磯邸園」として整備し、大磯の魅力のひとつである歴史的な建物群及び緑地の一体的な保存・活用を図り、地域資源を活かした観光の推進に繋げる。</p> <p>○交通結節点と交通アクセス環境の強化による人々の待ち合わせと回遊の拠点づくり ⇒・施設整備を検討するための社会実験を実施する。 ・町の玄関口である大磯駅前広場及び駅前広場アクセス道路に、待ち合わせや歩行、自転車の通行空間を整備するとともに、利便性の向上のためストリートファニチャーや上屋を整備する。 ・観光客に対し観光情報を発信し、また観光客と地域住民が交流することを可能にするなど、人の流れを呼び込み、町の魅力と活力を高める観光交流センターを整備する。また、観光案内サインにより、交通結節点と地域資源を有機的に結びつける。 景観形成指針の導入や電線類地中化により、駅前広場を歴史と自然に溢れる大磯らしい魅力の発信拠点とする。</p> | <p>【提案事業】 事業活用調査：社会実験調査 【基幹事業】 公園：明治記念大磯邸園整備 【基幹事業】 地域生活基盤施設：大磯駅前広場整備 【基幹事業】 高質空間形成施設：自転車通行環境整備 【関連事業】 観光交流センター整備、PPP/PFI活用調査（アドバイザリー業務） 【関連事業】 大磯駅前広場ストリートファニチャー等整備、大磯駅前広場シェルター整備 【関連事業】 大磯駅前広場景観形成指針作成、大磯駅前広場電線類地下埋設整備 【関連事業】 案内サイン整備</p> |
| <p>整備方針2<安全安心・防災のまちづくり></p> <p>・安全で安心な通行環境の整備 →未整備箇所歩道を設置し、錯綜している自動車や自転車、歩行者の動線を明確化するとともに、駅前広場に接続する町道の交差角を改善することで、人々が安心して町の玄関口である大磯駅前広場からまちなかに回遊できるようにする。</p> | <p>【基幹事業】 地域生活基盤施設：大磯駅前広場整備 【基幹事業】 高質空間形成施設：自転車通行環境整備</p> |
| <p>その他</p> | |

大磯駅周辺地区(神奈川県大磯町)

| | | | |
|----|---------|----|-------------------|
| 面積 | 40.7 ha | 区域 | 大磯町大磯、東小磯及び西小磯の一部 |
|----|---------|----|-------------------|

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



大磯駅周辺地区都市再生整備計画事業事前評価シート

計画の名称:大磯駅周辺の安全安心・にぎわい創出まちづくり 事業主体名:大磯町

チェック欄

| I. 目標の妥当性 | |
|-----------------------------------|---|
| ①都市再生基本方針との適合等 | |
| 1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 | ○ |
| 2)上位計画等と整合性が確保されている。 | ○ |
| ②地域の課題への対応 | |
| 1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。 | ○ |
| 2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い | ○ |
| II. 計画の効果・効率性 | |
| ③目標と事業内容の整合性等 | |
| 1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。 | ○ |
| 2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。 | ○ |
| 3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。 | ○ |
| 4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。 | ○ |
| 5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。 | ○ |
| ④事業の効果 | |
| 1)十分な事業効果が確認されている。 | ○ |
| 2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。 | ○ |
| III. 計画の実現可能性 | |
| ⑤地元の熱意 | |
| 1)まちづくりに向けた機運がある。 | ○ |
| 2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。 | ○ |
| 3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。 | ○ |
| ⑥円滑な事業執行の環境 | |
| 1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。 | ○ |
| 2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。 | ○ |
| 3)計画について住民等との間で合意が形成されている。 | ○ |